

10周年記念事業報告

■フォーラム・祝賀会

場所：ヒルズサンピア山形

〒990-2333 山形県山形市蔵王飯田 637

日時：平成30年11月3日（土）

●記念講演 15:00～15:50 **参加者 46名**

講師 大草 玄 きさらぎジュニア代表

講師の大草先生から、普段の活動の様子をまとめた映像などを交えながら30年にわたり続いてきたきさらぎジュニアの活動に基づく経験談をお話し頂いた。

山形に来る前に、背中を負傷したということで不自由な体にも関わらず講師をお受けいただいたことに感謝したい。けがをした原因も、障がいをもつ子どもが、とびかかってきたのを受け止めたことが原因ということで、普段から様々な困難に直面しながらの活動であることを再認識した。

保護者の協力が支えになっているということ、手作りのメモ帳、コースターなどを販売して財源を得ていることなどは大変参考になった。また、障がいのある子たちも、自分のことは自分でやるということを徹底して教えることでかなり自立した行動がとれるようになるということがわかった。

FHという競技が、他のスポーツに比べると、障がいのある人たちが取り組みやすい競技であることを再認識した。今後の山形におけるフロアホッケーの普及にむけて多くの気づきを得ることができた講演であった。

●パネルディスカッション 16:00～17:00 **参加 60名**

インクルージョン社会を目指して これからの10年～

コーディネーター：花輪 敏男 氏(FR 教育臨床研究所所長)

パネラー (株)大風印刷 代表取締役 大風亨・ ぶれジョブ 西幸代 ・教育委員 無着道子

障がい者雇用企業、ボランティア経験者、家族等、様々な立場のパネラーをお招きしてこれからインクルージョン社会をつくるためのパネルディスカッションを行った。

細川佳代子理事長は体調不良のため登壇せず、フロアからの参加となった。

大風さんからは、雇用企業の立場から、障がいのある社員がいると社員全員が優しくなってくる、といった金銭面や仕事面ではない部分でのメリットがあることを発表してもらった。

無着さんからは、障がいのある子にとって、フロアホッケーチームや活動の場が、居心地の良い居場所になっていることに気が付き親として安心したこと、チームのみんなとお弁当を食べることが楽しい、といった、日常の中で忘れてしまいがちな一コマが大切な時間になっていることに気が付いた問お話を頂いた。西さんからは、ぶれジョブに関しての説明があった。週に一時間のぶれジョブが、障がいのある人のみならず、受け入れる企業、社会にとっても得るものが多い活動であることを学ぶことができた。体育館から外の社会へを目指す今後の活動にむけて大変参考になるパネルディスカッションであった。

●祝賀会 18:00~20:00 **参加者 47名**

会費 3,500円（ヒルズサンピア宿泊者は宿泊料に含まれます。）

アルコールなしの祝賀会であったが、大会参加チームのPRタイム、四方山会による躍動感のある花笠踊りの披露、そして会場を輪になって踊った花笠踊りと、大いに盛り上がる事ができた祝賀会であった。アスリートたちの楽しそうな顔を拝見し、この祝賀会の開催が成功であったことを確信できた。県外チームとの情報交換もできて、今後の活動で連携を図る上でも有意義な時間となった。